

1 ポイント（特に工夫した項目に○ いくつでも）

作成者：小林 幹明

（中学部）

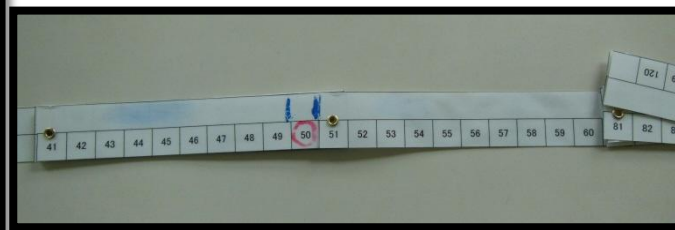


教材教具の工夫

1 実態に合っているか？	○
2 ねらいが明確か？	○
3 興味関心を生かしているか？	○
4 シンプルで誰でも再現可能か？	○
5 一目で動作をイメージできるか？	○
6 児童生徒も教師も使いやすいか？	○
7 実際の生活や他の場面で生かせるか？	○

2 児童生徒の実態（個人またはグループ）

- ・対象生徒（w）
- ・はかりを使うことが初めてで、どこに注目すればよいのか、どうやって必要な数字にあわせればいいのか、言葉での理解が難しい。
- ・100までの数唱ができる。
- ・注目すべき場所、比べる具体物があり、実体験を重ねることでやり方を理解していくことができる。



3 教材教具のねらい

- ・数列の数字とはかりの数字を見比べて、必要な重さに合わせることができる。

4 改善の経緯

（1）7月頃の使用例や児童生徒の様子

- ・教師が手を取りながら、輪ゴムをはかりに運ぶことで手順を確認した。量りの数字部分にテープで枠組みをし、注目できるようにした。量りの数字と10ごとのカード（細かな数字）を提示したが、どこに注目したらいいのか理解が難しかった。
- ・輪ゴムを量りに乗せる工程は、理解できたが、受け皿を乗せずに輪ゴムを乗せてはかり始めてしまっていた。

- ・1時間の完成量は、5箱

（2）12月現在の使用例や児童生徒の様子

- ・自分で、量りに必要な道具を適切な位置に並べ、作業に取り組むことができるようになった。
- ・使い始めは、一回輪ゴムを乗せるごとに量りの数字を読み上げ、数列カードを指さし確認していた。慣れてくると、必要な重さ（50グラム）に近づくと数字を読み上げることなく、量りの数字だけを見て輪ゴムの量を調節できるようになった。

- ・1時間の完成量は、10箱

改善のポイント！！

- ・1から100までの数字を1列に並べることで、数列を意識させる。また、一つ一つの数字が全体のどの位置なのかを確認させることで、必要な重さまで、そのくらいの調節が必要なのか、理解できるようにした。

今後の改善や使用について

- ・本人の教育的ニーズを検討した上で取り組んでいく。